



SG2 副議長 (新任)

国立研究開発法人情報通信研究機構

いまなか ひでお
今中 秀郎

〈プロフィール〉

専門領域：ネットワークアーキテクチャの研究、標準化

- 1987年 三重大学大学院工学研究科電子工学専攻修了
- 1987年 日本電信電話株式会社入社
- 2003年 ITU-T SG13に参画、NGN及びIPTV標準化実施
- 2006年 ITU-T SG13 Q1 (NGN計画と協調) ラポータ就任
- 2010年 ITU-D SG2に参画
- 2013年 ASTAP IoT-WG議長就任
- 2014年 ITU-D SG2 Q5 (災害対応) の副ラポータ就任
- 2015年 ITU-T FG-NET2020副議長就任
- 2016年 ITU-T SG16 Q8 (イマーシブライブ体験) ラポータ就任
- 2022年 ITU-T SG16 WP3 (AV符号化とイマーシブサービス) 議長就任
- 2022年 ITU-T FG-Metaverse副議長就任
- 2022年 ITU-D SG2副議長就任
- 2022年 情報通信研究機構 (NICT) 入所 (現在に至る)

—— 先のWTDC-22での選出そしてご就任おめでとうございます。今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちをお聞かせください。

今中 ありがとうございます。ITU-Dには2010年から参加していますが、ITU-Tに比べて途上国の方がたくさん参加されていますので、様々な国の方々から注目していただけることに緊張しております。ITU-DのSG2副議長になったことで、今までのITU-TやITU-Rの経験を活かしてITU内外の情報連携をより活性化したいと考えております。

—— ご担当事項 (ご専門領域) とご経歴、ITU (SG) との関わり (年数など)、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

今中 ITUの標準化活動は、2003年にSG13でNGN (次世代通信網) の標準化から始まり、その後フォーカスグループ (FG) でFG-IPTV、FG-IMT2020 (5G) や災害対応のFG-DR&NRR、SG16でイマーシブライブ体験、SG11でIoT機

器の試験方法、SG11、13、17でQKDN関連、ASTAPでスマートシティ、ITU-R WP5Aで無線LAN周波数、ITU-Dで災害対応関連技術の国際普及など、広範囲に活動してきました。役職としては、ITU-TでQ1/13ラポータ、FG-IMT2020副議長、Q8/16ラポータ、WP3/16議長、ITU-DでQ5/2副ラポータ、ASTAPでIoT-WG議長などを務めました。

また、TSAG (通信標準化諮問委員会)、WTSA (世界電気通信標準化総会)、WTDC (世界電気通信開発会議)、WRC (世界無線通信会議)、PP (全権委員会) に参加経験があり、ITU全体及び3セクタの研究方針の議論にも寄与しております。

—— 今研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのようなこととお考えでしょうか。

今中 今研究会期からSG2の大きなテーマがデジタルトランスフォーメーションになりました。これに伴い、Q2/2ではいままでのe-Healthに加え、教育や金融を含むe-Serviceを扱い、Q5/2ではデジタルディバイド解消のためのデジタルスキル育成を扱うことが大きな変化となります。SG2としては、今まで以上にITU-T、特にSG16との関連がより一層必要になると考えております。

—— 副議長としての抱負をお聞かせください。どのようところに力点を置いて活動されるご予定でしょうか。

今中 私はITU-T SG16でWP3議長を務めており、また、ITU-Tの他SGやITU-Rでの活動経験もありますので、ITU-DのSG2とITU内組織との連携を強化するよう努めたいと思っています。具体的には、ITU-TとITU-Dでe-Serviceに関する合同ワークショップの開催や、リエゾン文書の定期的なやり取りなどを働きかけたいと考えております。これにより、ITU-TやITU-Rの標準などを、ITU-Dを通じて途上国への円滑な展開を目指します。

—— 副議長としての難しさや障壁はどのようなものが想定されるでしょうか。また、そうしたことへの対処方法はどうお考えでしょうか。

今中 SG2議長や多くの副議長が1期目ですので、議事進行や成果物の承認などSGの円滑な運営に心配があります。私自身も副議長は1期目ですが、ITUでの長い標準化活動経験から会議運営をサポートしたいと考えています。

副議長というよりITU-Dとしては、途上国からの参加は増えていますが先進国からの参加者数が増加しておらず、特に日本企業の参加が少ないことを懸念しております。日本としてITU-Dの活動をさらに盛り上げていくよう、各社のご協力をお願いします。

—— ポストコロナのSGの活動はどうなっていくと思われ

ますか。また、どのようにしたいとお考えでしょうか。

今中 2022年12月にWTDC22後の第1回のSG2会合がジュネーブで開催されました。現地に途上国やYouthを含む100名程度が参加されており、徐々に以前のような対面会議に戻りつつあります。COVID-19パンデミックにより完全電子会議になったことで、途上国の方を含め、参加が容易な電子会議の良さにも気が付いてきています。今後は対面会議と電子会議の併用が増えると考えております。また、メタバースを使った仮想空間上での対面会議などができると、電子会議と対面会議の両方の良さが活かされる部分があると思いますので、今会期は無理でも次会期のいくつかの会議がメタバース上で実施できないかと妄想しております。

—— 我が国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力についての期待をお聞かせください。

今中 まず、日本は超高齢社会が世界に先駆けて進んでおり、また、災害の多い先進国でもありますので、日本の高齢者向けICTサービス、デジタルディバイドの解消策、ハザード検知や緊急時に役立つICTサービスなど、途上国にとって有益な技術やソリューションを有していると思います。途上国はICTインフラが脆弱な場合が多いですが、既存インフラを意識せず最新技術が最初に入る可能性もあり得ます。日本政府には、ITU-Dを通じた途上国への日本企業のソリューションや技術を国際展開するための基盤を整備していただき、各社にITU-Dへの更なる参画を働きかけていただきたいと思います。

NICTやアカデミアを含めたICT産業界としては、日本を含む先進国の先端技術を途上国でも必要としていることを認識し、途上国での実証実験やソリューション展開などWin-Winとなる関係を構築する場としてITU-D活動を捉え、積極的な参画を期待しております。

また、NTTの尾上さんがITU-T局長に選出されましたので、ITU-TとITU-Dの連携を日本がリードして強化し、ITU-Tの活動成果を途上国に展開するなどを含めたITU全体としての取組みを政府やICT産業界に期待しております。

—— 最後に、個人の信条や、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

今中 信条という大きなものではないですが、悩んだ時や迷った時に思い出す言葉は「初志貫徹」です。標準化活動はビジネスの一環という考えを持っておりますので、これを初志と考え、ITU活動を通じて日本企業のソリューションを国際展開する足掛かりとしてITU-Dを活用することが一

般的になるよう、総務省や日本ITU協会のご協力を得ながら国内外に働きかけたいと思います。

プライベートの面では読書とか旅行が好きですので、ドライブ、鉄道旅、飛行機旅をいろいろ計画しています。新型コロナウイルスによる行動制限もあり、この2、3年はほとんど計画だけで終わっています。早くコロナ前の状態に近いところまで戻ることを願っております。

—— 読者へのメッセージをお願いいたします。

今中 ITU-Dには途上国から政府や規制機関の代表者が参加されております。その国では相当なポジションの方だと思いますので、ITU-Dに参加されると、それらの方とも気軽に話ができる機会が作れます。民間企業の方で国際展開（特に途上国）をお考えになっている方は、ITU-Dを是非有効にご活用ください。

ITUやAPTには、独自の途上国支援プロジェクトがあります。相手先の国と合意ができれば、このプロジェクトを活用した国際展開の可能性もありますので、実証実験やトレーニングなど研究開発段階からソリューションのアフターフォローまで様々なフェーズで使えると思います。

—— その他、ご要望などがございましたらお願いします。

今中 日本ITU協会にはITUを含む標準化活動の活性化のため、政府と民間との橋渡しやITUと日本との橋渡しなど、様々な面での情報発信を期待しております。また、若手の標準化への参画促進や、産官学の標準化の取組みなど、標準化活動の情報ハブとして機能していただくと国際標準化での日本のプレゼンス向上につながると思います。



出典：https://www.flickr.com/photos/itupictures/albums

【読者のための豆知識】

SG2（第2研究委員会）の活動内容：デジタルトランスフォーメーション